

# タカラバイオ株式会社

東証プライム・4974

## 会社説明会

2024年3月22日

### 将来の見通しに関する注意事項

資料中の当社による現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

お問い合わせ先：広報・IR部

E-mail: [bio-ir@takara-bio.co.jp](mailto:bio-ir@takara-bio.co.jp)

# タカラバイオ株式会社

設立 : 2002年4月1日設立

本社 : 滋賀県草津市  
野路東七丁目4番38号

代表者 : 代表取締役社長  
仲尾 功一

従業員 : 1,847名(連結)  
804名(日本) ※

連結子会社 : 8社

上場市場 : 東証プライム(4974)



本社事業所

2

※2023年9月30日現在



## タカラバイオグループの原点は 国産初の遺伝子工学研究用試薬の開発

1925年 寶酒造株式会社 (現宝ホールディングス株式会社) 創立

1967年 寶酒造株式会社 中央研究所設立



1979年 国産初の遺伝子工学研究用試薬を発売

1988年 PCRシステムの国内独占販売権を取得



2002年 タカラバイオ株式会社設立

2004年 東証マザーズ上場

2014年 遺伝子・細胞プロセッシングセンター稼働

2015年 滋賀県草津市へ本社機能を移転：新研究棟完成

2016年 東証一部へ市場変更

2020年 遺伝子・細胞プロセッシングセンター 2号棟稼働

2022年 東証・新市場区分「プライム市場」へ移行

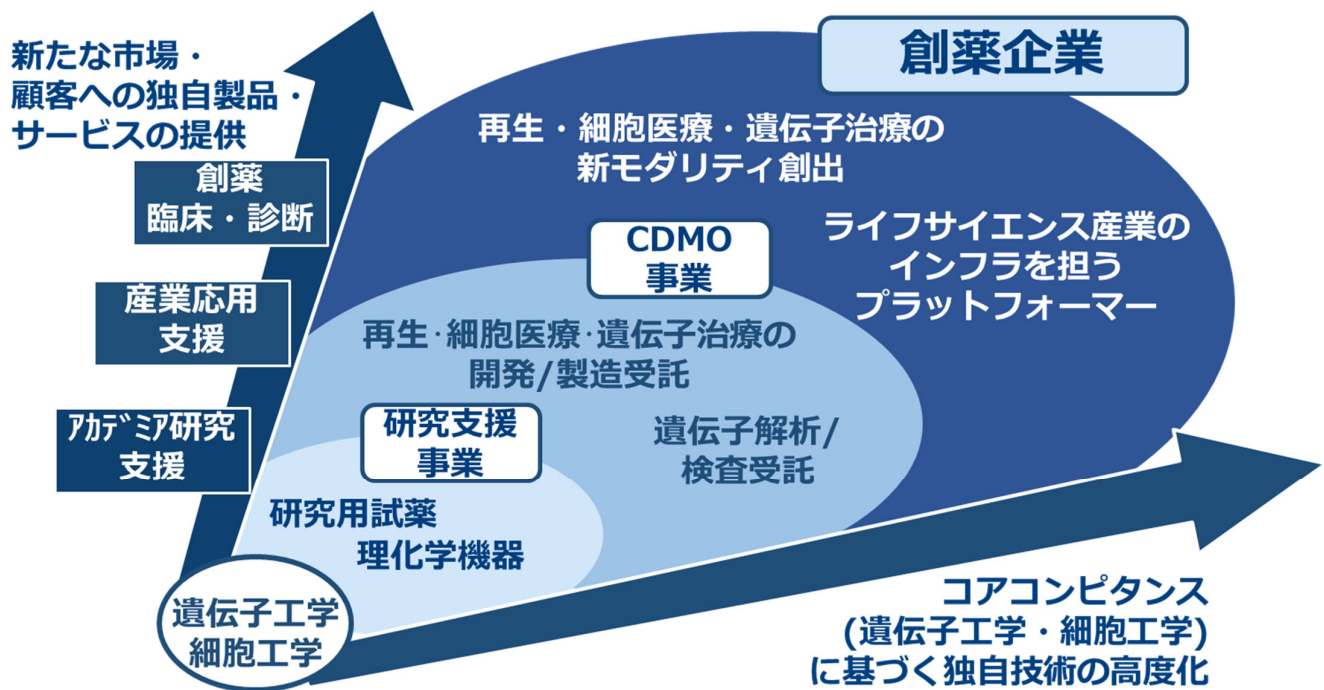


写真 (上) 寶酒造中央研究所 (1970年頃) (下) 研究用試薬の製造の様子 (1980年代)

3



# ライフサイエンス産業のインフラを担う グローバルプラットフォーマーを目指す



4

Takara

## 世界中のバイオ研究者が顧客 技術基盤かつ収益基盤である試薬事業/機器事業

### 試薬事業



一般研究用試薬



体外診断用医薬品

遺伝子を増幅する酵素など約10,000品目の  
一般研究用試薬、体外診断用医薬品  
(数千~数十万円~)

### 機器事業



PCR装置



自動核酸精製装置



シングルセル解析システム

遺伝子増幅する装置、  
細胞を解析する装置など  
(数十万~数百万円~)

5

Takara

# PCRをはじめ、試薬事業の産業分野への展開が進行中

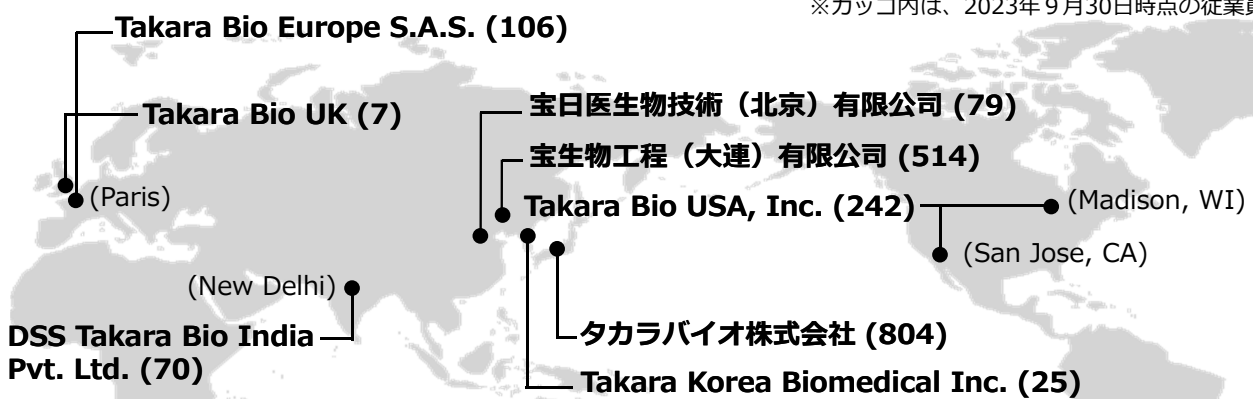


⑥ タカラバイオ製品カタログより

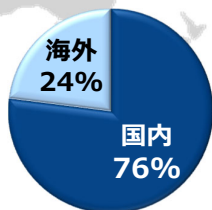


# 中国/日本に加え印度/米国/欧州に製造拠点を展開 全世界に販売網を構築：グローバル体制

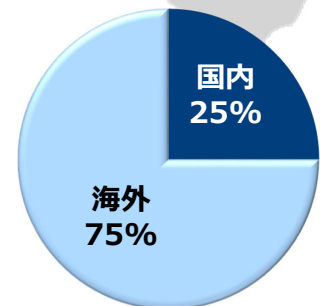
※カッコ内は、2023年9月30日時点の従業員数



国内/海外  
試薬売上の状況



2004年度  
売上高 65億円



2023年度予想(11/9)  
売上高 327億円

⑦



免疫細胞（オレンジ）が  
ガン細胞を攻撃する

生体分子の  
機能を利用した  
医薬品開発が  
世界的に進行中

東京大学医学部附属病院  
免疫細胞治療学講座 垣見和宏教授より提供

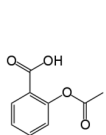
## 医薬品モダリティの変遷 バイオ医薬品(ヒト体内成分活用医薬品)の台頭

再生医療

細胞医療・遺伝子治療

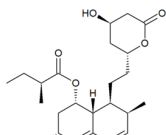
タンパク質・抗体

低分子化合物

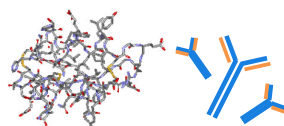


アスピリン

< nm



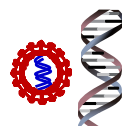
スタチン



タンパク質

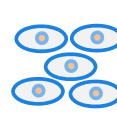
抗体

1 ~ 10nm

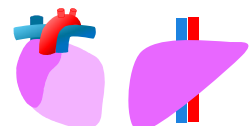


遺伝子

< μm ~ cm



細胞



臓器

> cm

疾患の1標的に作用する治療

自己治癒力を利用した治療

9

モダリティ：治療手段

Takara

# 独自の創薬基盤技術を活用し、飛躍的成長を目指す CDMO事業/遺伝子医療事業

## CDMO(受託)事業



再生医療等製品関連受託



遺伝子解析/検査受託

研究者（顧客）からサンプルを預かり、得られたデータ産物を納品。製薬企業などから依頼を受けてバイオ医薬品の製法開発から製造までの工程を行う（数十万～数千万円～）

## 遺伝子医療事業



RetroNectin®



mRNA  
製造用酵素

遺伝子治療薬やmRNA薬の製造に用いられる製造補助剤（数十万円～数千万円～）

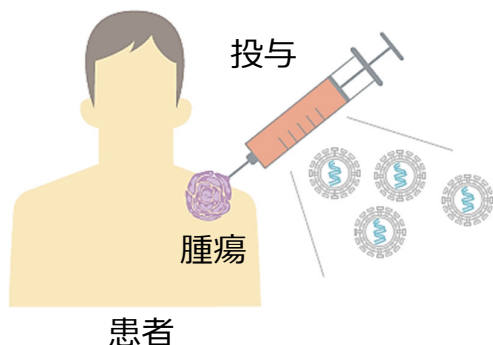
10 CDMO：契約ベースでバイオ医薬品などの開発製造を受託するビジネスモデル



## 遺伝子治療

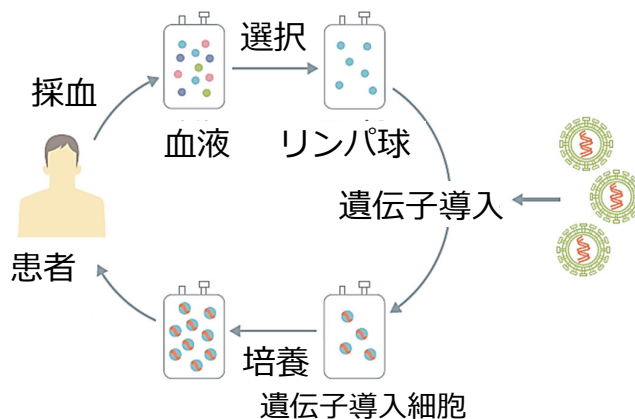
### 治療用遺伝子や遺伝子を導入した細胞を投与する治療法

#### in vivo(体内)遺伝子治療



治療用遺伝子をベクター等により体内(患部)に直接投与

#### ex vivo(体外)遺伝子治療



体外で治療用遺伝子を細胞に導入しその細胞を患者に投与

11 ベクター：遺伝子の運び屋。無毒化されたウイルスが利用されることが多い



## 遺伝子治療分野の市場規模は 特に高い成長率が期待されている

モダリティ	グローバル市場規模		年間成長率	
	2020年	2030年		
低分子医薬	48兆円	55兆円	微増	
中分子医薬	核酸医薬	4,500億円	2.1兆円	17%
	ペプチド医薬	3.2兆円	4.7兆円	8%
高分子医薬	タンパク質 医薬	6.4兆円	10兆円	4%
	抗体医薬	16兆円	23兆円	8%
再生医療	スキャフォールド 治療	4億円	29億円	21%
	組織移植	600億円	900億円	4%
	細胞移植	2,200億円	2.5兆円	27%
遺伝子治療	ex vivo 遺伝子治療	1,400億円	2兆円	31%
	in vivo 遺伝子治療	2,100億円	2.9兆円	30%

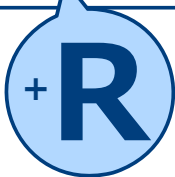
12

政府 健康・医療戦略推進本部 会議資料(2020年12月23日)より抜粋、当社にて編集



## 独自の創薬基盤技術を活用し CDMOサービスにより競合他社との差異化を図る

C D M O



- 独自のプラットフォーム技術や臨床開発プロジェクトの経験を、クライアントの開発シーズへ提供できるのが当社の強み
- 将来の開発(D)・製造(M)を見据え、開発初期からクライアントに伴走する包括的支援サービスを提供

クライアントの  
標的抗原/  
治療用遺伝子

当社基盤技術

	in vivo遺伝子治療		ex vivo遺伝子治療	
有効性・安全性 向上技術	CereAAV™	SonuAAV™	* siTCR®	* JAK/STAT ・CAR
高品質・高効率 製造技術	AAV 大スケール製造	LV 大スケール製造	RetroNectin®法	Spo-T™法

13

\* siTCR技術を用いた臨床試験TBI-1301が  
国内で製造販売承認申請の準備中

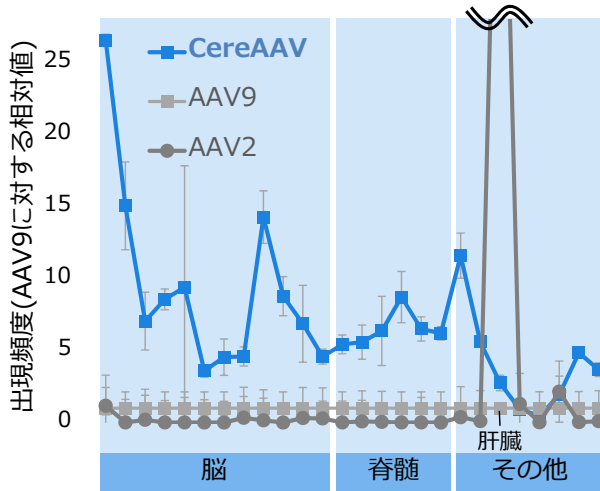
\* JAK/STAT技術を用いた臨床試験TBI-2001  
はカナダ医師主導臨床試験が進行中





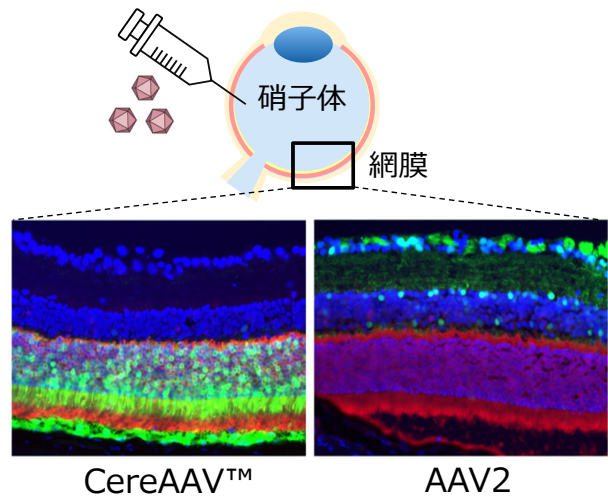
# CereAAV™ : 脳や網膜への高効率遺伝子導入が可能 臨床開発プロジェクトも計画

## カニクイザルでの遺伝子発現評価



CereAAV™は、従来の遺伝子治療用ベクター(AAV2およびAAV9)に比べて脳や脊髄で高い遺伝子発現を示す

## マウス硝子体内投与による評価\*



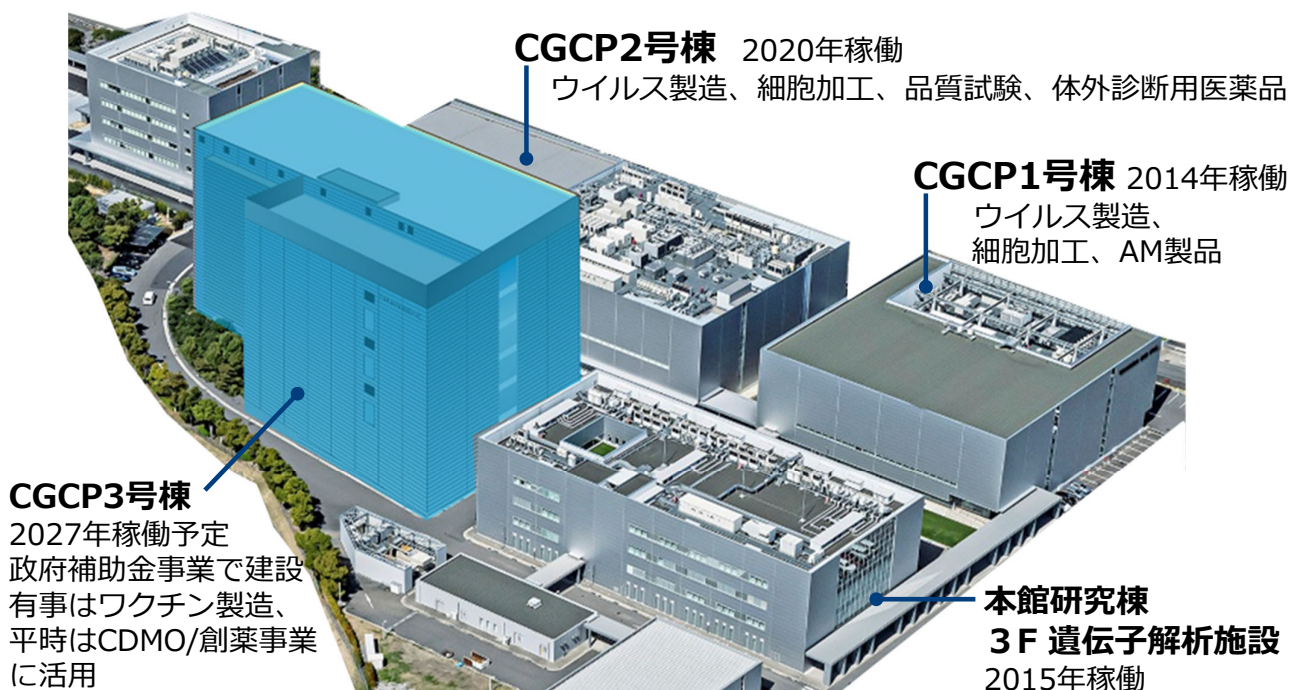
CereAAV™により、視細胞が多く含まれる網膜層へ、AAV2に比べて高い効率で遺伝子導入される(緑色)

14

\*東京都医学総合研究所 原田高幸博士(エトリアー)・行方和彦研究員らとの共同研究データより



# 国内最大級の施設で ワンストップCDMOサービスを提供



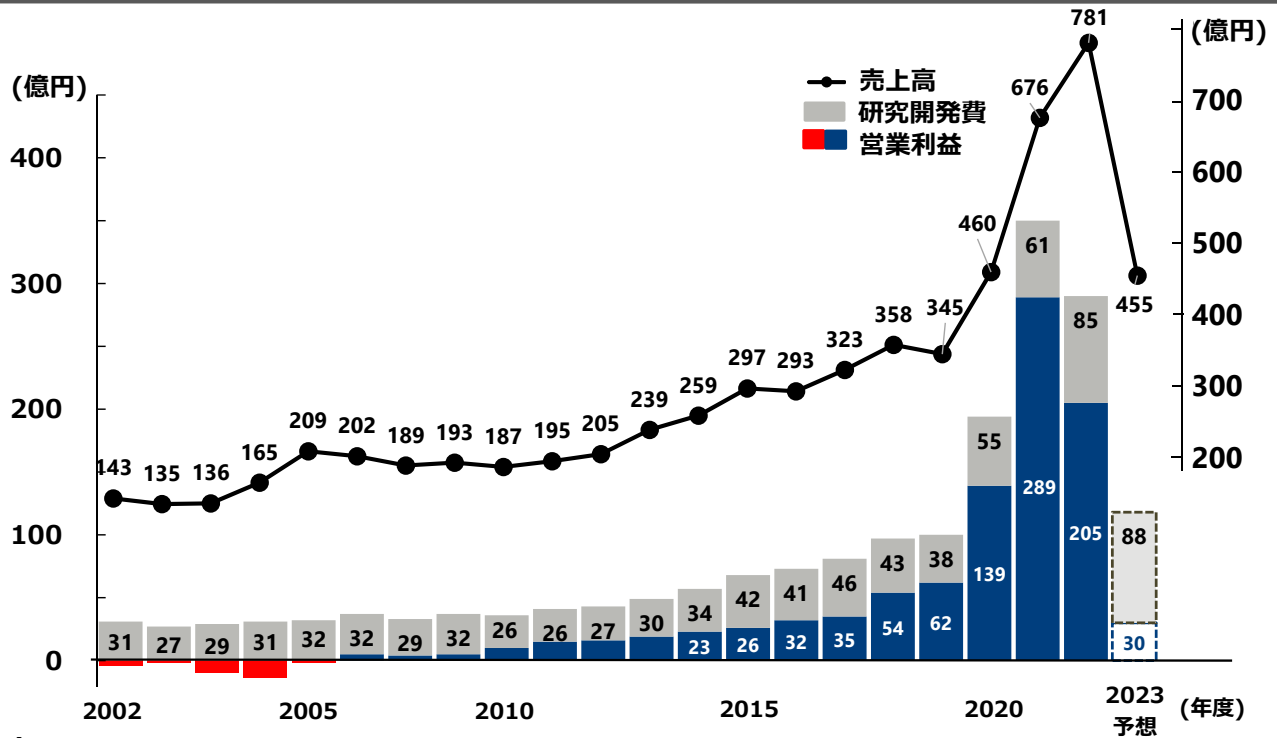
15

CGCP : 遺伝子・細胞プロセッシングセンター



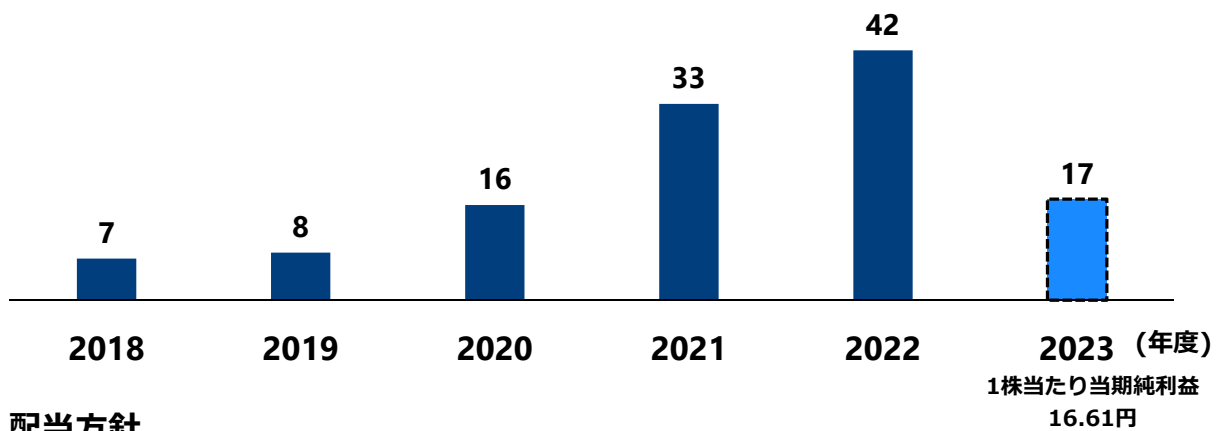


# 業績推移



# 株主還元について

1株当たり配当金の推移 (円)



## 配当方針

当社は、研究開発活動を積極的に実施していくため内部留保の充実に意を用いつつ、株主の皆様への利益還元についても重要な経営課題と位置づけ、経営成績および財政状態を総合的に勘案して利益還元を実施していくことを基本方針としています。2023年度より、連結財務諸表における特別損益を加味せず算出された想定当期純利益の35%を目途としています。

## 2023年度 連結業績予想 (11/9)

(百万円)

	2023年度 通期予想 (11/9)	前期比	
		増減	増減率
売上高	45,550	▲32,642	▲41.8%
売上原価	17,399	▲15,977	▲47.9%
売上総利益	28,100	▲16,664	▲37.2%
販売費及び 一般管理費	25,100	+876	+3.6%
営業利益	3,000	▲17,541	▲85.4%
経常利益	3,200	▲17,482	▲84.5%
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,000	▲14,012	▲87.5%

(18)

TakaRa

## 2023年度 カテゴリー別売上高予想 (修正)

(百万円)

	2023年度 通期予想 (11/9)	前期比	
		増減	増減率
試薬	32,792	▲33,133	▲50.3%
機器	1,314	▲61	▲4.5%
受託	8,652	+451	+5.5%
遺伝子医療	2,740	+100	+3.8%
売上高合計	45,500	▲32,642	▲41.8%

(19)

TakaRa

## 経営指標等の推移

(百万円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 <sup>注1</sup>
売上高	34,565	46,086	67,699	78,142	45,500
営業利益	6,274	13,952	28,902	20,541	3,000
経常利益	6,347	14,159	28,459	20,682	3,200
親会社株主に帰属する当期純利益	3,819	9,547	19,849	16,012	2,000
研究開発費	3,869	5,545	6,109	8,575	8,810
設備投資	5,365	8,897	13,180	6,516	16,000
従業員数	1,485	1,539	1,666	1,793	1,847 <sup>注2</sup>

⑳ (注1)11/9予想, (注2) 9/30現在